

# FDMによるFTDでのOSPFルーティングの設定

## 内容

---

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[コンフィギュレーション](#)

[ステップ 1: FTDのSmart CLIへのアクセスを設定します。](#)

[ステップ2:Smart CLIオブジェクトのパラメータを設定します。](#)

[ステップ3:設定変更の導入](#)

[ステップ4:ルータでの設定](#)

[ステップ5:FTD CLIの設定を確認します。](#)

[確認](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、Firepower Device Manager(FDM)で管理されるFirepower Threat Defense(FTD)でOSPFルーティングを設定する方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- FDM
- FTD
- OSPF

### 使用するコンポーネント

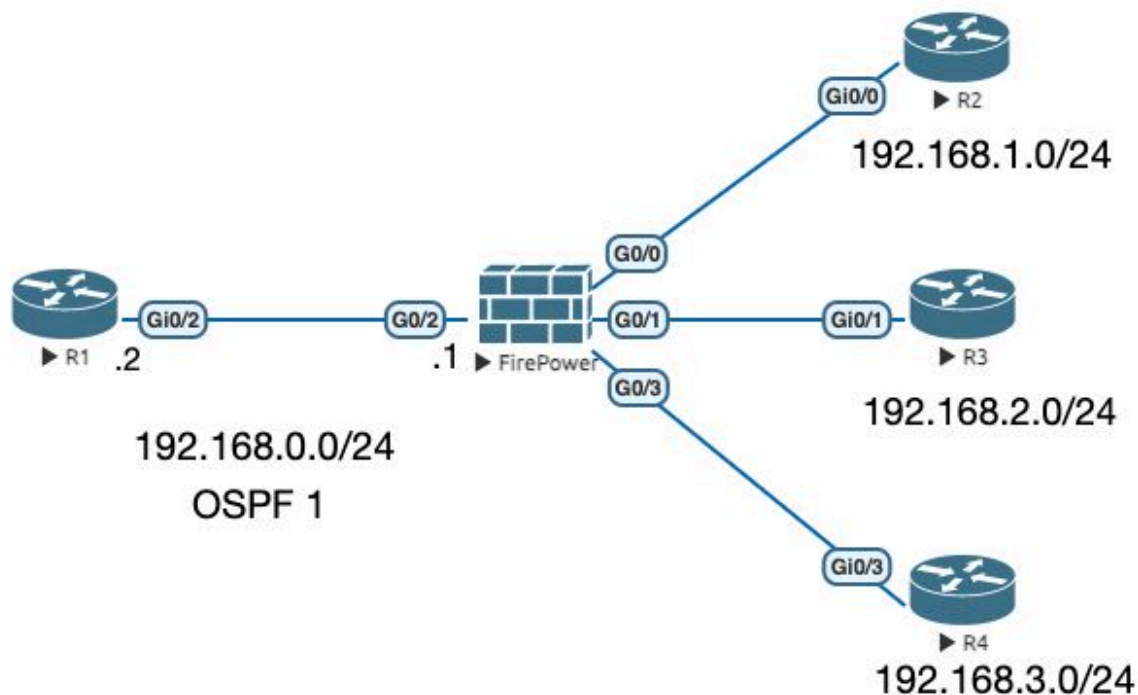
このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- FTDバージョン6.4.0以降で、FDMによって管理されます。
- すべての物理および仮想プラットフォーム

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始していません。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 設定

### ネットワーク図



### コンフィギュレーション

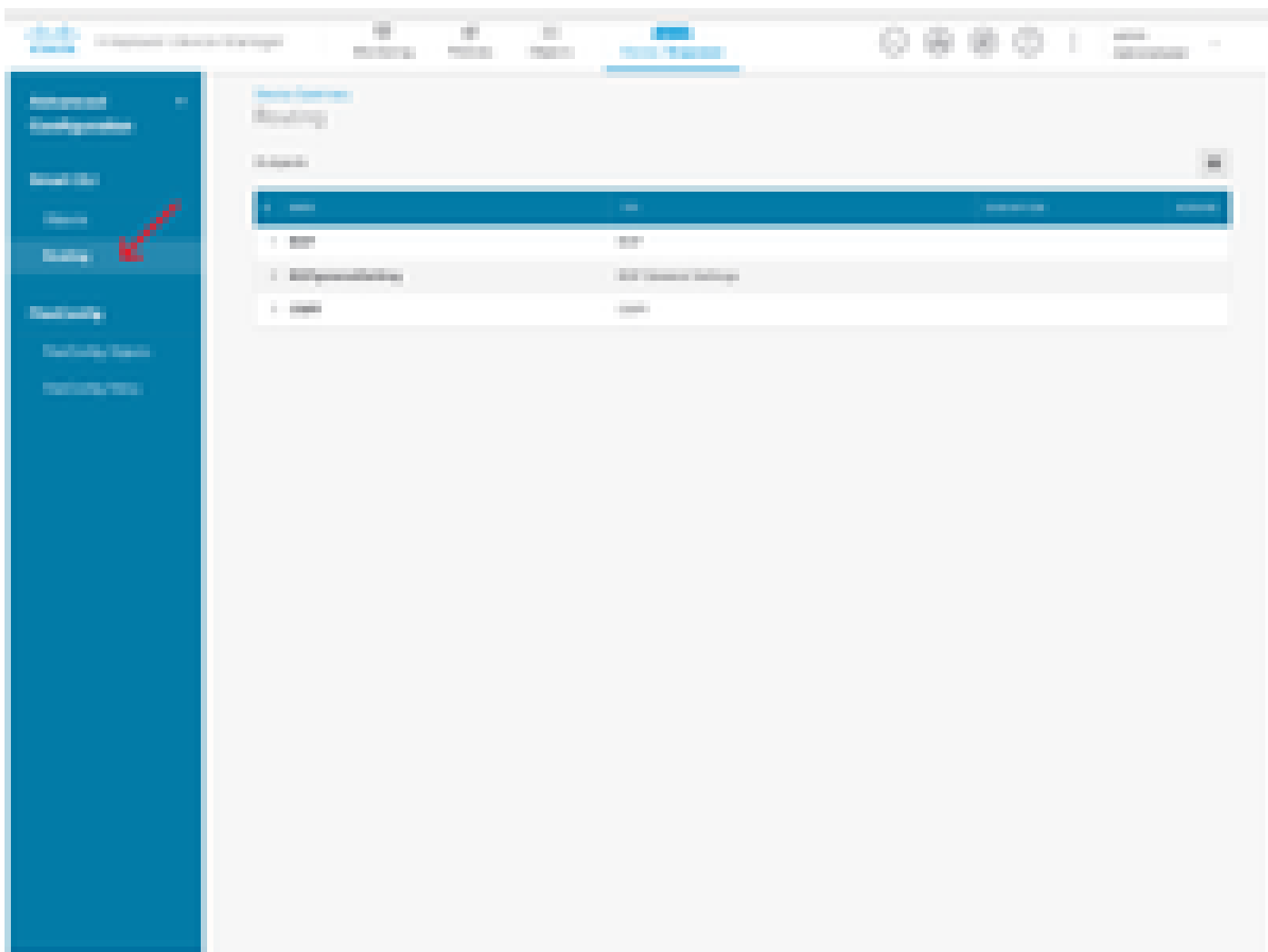
このシナリオでは、「ネットワークダイアグラム」のFTDおよびR1ルータにOSPFを設定します。  
3つのサブネットに対してFTDとルータでOSPFを設定している。

ステップ 1 : FTDのSmart CLIへのアクセスを設定します。

- FDMにログインし、Device:Firepower > Advanced Configuration > Smart CLI > Routing > Create New > Add name > CLI Template > OSPFの順に選択します。



- (ルーティングセクションにアクセスし、+アイコンを使用して追加します)。



- ネットワークポロジの要件に従って、各設定テンプレートコマンドにアクセスします。
- このドキュメントの設定は、参照先のネットワークダイアグラムを使用して完成しています。

ステップ2: Smart CLIオブジェクトのパラメータを設定します。

## Edit OSPF Object

Name	Description
OSPF	

Template Show disabled Reset

```
1 router ospf 1
2 log-adj-changes disable
3 no log-adj-changes
4 setup ospf advanced
5 router-id 192.168.0.1
6 configure summary-route-cost any
7 no compatible rfc1583
8 distance ospf inter-area 110
9 distance ospf intra-area 110
10 distance ospf external 110
11 timers lsa arrival 1000
12 timers pacing flood 33
13 timers pacing lsa-group 240
14 timers pacing retransmission 60
15 timers throttle lsa 0 5000 5000
16 timers throttle spf 5000 10000 10000
17 default-information originate
18 default-information originate always
19 default-information originate metric 1 metric-type 2
20 area 0
21 configure area 0 properties
22 network 192.168.0.0 area 0 tag-interface
23 network 192.168.1.0 area 0 tag-interface
24 network 192.168.2.0 area 0 tag-interface
25 network 192.168.3.0 area 0 tag-interface
```

CANCEL OK

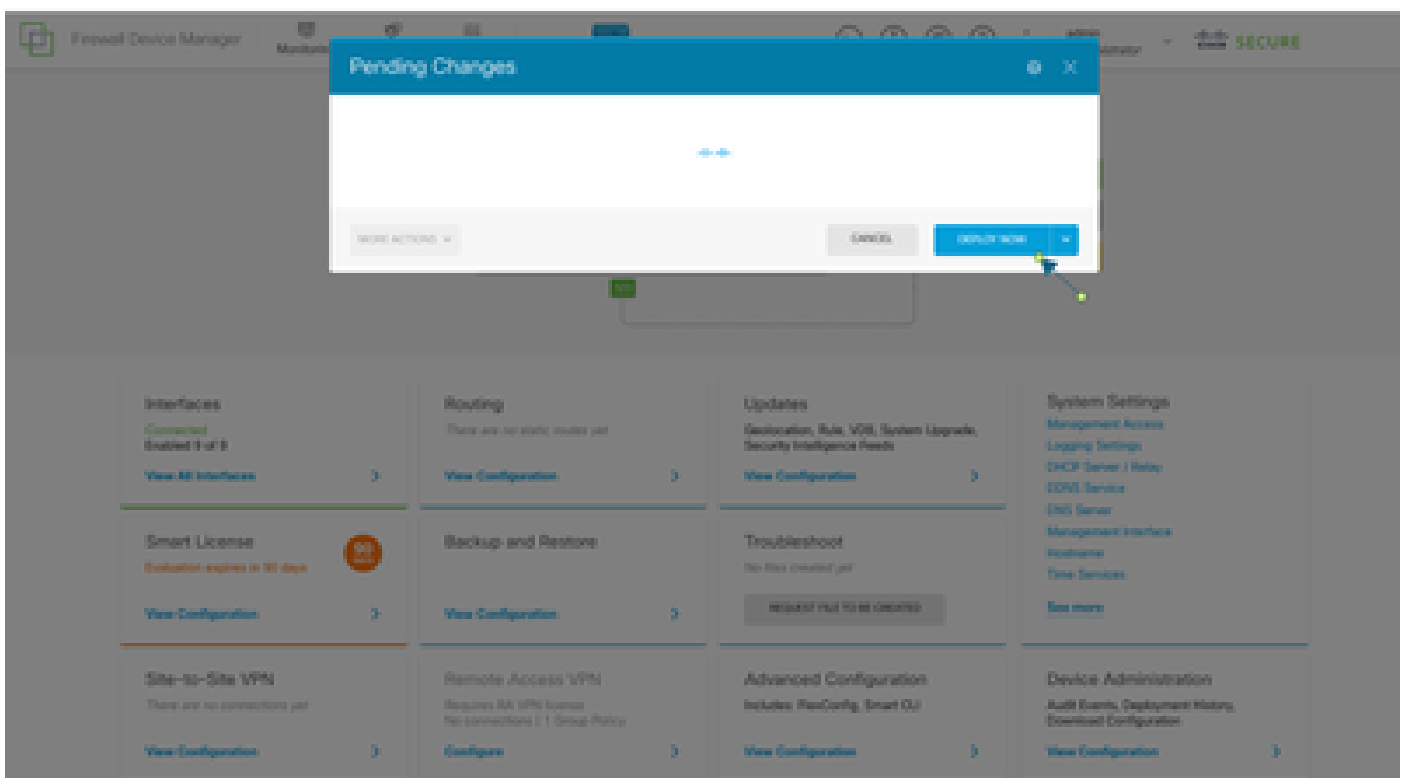
- 強調表示されているのは、ネットワークダイアグラムに従って行う必要がある設定の変更です。
- パラメータ：OSPFプロセスID、ルータID、エリア、ネットワークが変更されます。

### ステップ3：設定変更の導入

- 次の図で矢印で示されているDeployアイコンをクリックします。



- 次に、Deploy Nowタブをクリックします。



#### ステップ4：ルータでの設定

- 設定をルータに追加します。このシナリオでは、ネットワークダイアグラムのルータR1に設定します。次の図を参照してください。

```
R1#show run | section router
router ospf 1
  router-id 192.168.0.2
  network 192.168.0.0 0.0.0.255 area 0
```

ステップ5:FTD CLIの設定を確認します。

- CLIでshow run router ospf コマンドを使用して確認します。

```
router ospf 1
  router-id 192.168.0.1
  network 192.168.0.0 255.255.255.0 area 0
  network 192.168.1.0 255.255.255.0 area 0
  network 192.168.2.0 255.255.255.0 area 0
  network 192.168.3.0 255.255.255.0 area 0
  area 0
  timers throttle lsa 0 5000 5000
  no compatible rfc1583
  default-information originate always metric 1
```

## 確認

FTD CLIの設定で確認するには、次の手順を実行します。

- show route : アドバタイズされているOSPF ルートを確認します。
- show ospf neighbor ( 隠しコマンド )

ルータの設定を確認するには、次の手順を実行します。

- show ip route : アドバタイズされているOSPF ルートを確認します。
- show ip ospf neighbor

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。